

## 第5回映画鑑賞の報告

1. 実施日時 : 12月9日(水) 11:20~13:40
2. 上映館 : 新宿バルト9(新宿3丁目イーストビル9階)
3. タイトル : 『海難1890』=日本・トルコ合作映画
4. 参加者 : ・井垣・伊藤(徹)・小川・栗原・山本・鈴木 (6名敬称略)
5. 懇親会 : 銀座アスターベルシーヌ新宿

\* 師走の何かと忙しい中、初参加の山本さんはじめ5名の参加をいただき、全員が約束の11時前に集合して

友好125周年記念の日本・トルコの合作映画を鑑賞しました。

合作映画化のきっかけは、2001年に串本町町長室の「開かずの金庫」から1890年にオスマン皇帝の親書を明治天皇に奉呈した親善使節団を乗せたエルトゥールル号遭難の時のトルコ人遭難者の診断書とオスマン帝国政府へ宛てた手紙が発見され、手紙には治療費の支払いを申し出たオスマン帝国政府に対し治療費の受け取りを断り、トルコ人遭難者の援助を求める旨が書かれていました。

この手紙の内容に感動した当時の田嶋串本町町長が田中監督に映画化を提案し、2013年に安倍総理とトルコのエルドアン首相の間で決定したと云われています。

映画は、前半が横浜港からの帰路にエルトゥールル号が串本沖で台風に遭遇して、乗員69名の負傷者と約500名の死者を出した際の串本住民の献身的な救助活動が映され、後半は1985年のイラン・イラク戦争でイラン在留邦人を日本が救出のための飛行機を飛ばせなかった時にトルコ政府は英断を下しイラン在留トルコ人より優先して2機の飛行機を日本人救出のために与えてくれたことが映されていました。(トルコ人は危険を押しして陸路で帰国させた)

一部において事実かなとの疑問を持つ場面もありましたが、鑑賞者全員が感動作品と受け取られたようです。

串本住民の献身的な救助活動の様子は現在でもトルコの小学校の教科書に載っているそうですし、概してトルコ国民が親日的であることはこのような史実があるからと思われれます。



### \* 懇親会

映画鑑賞後に参加者全員で13時50分より15時過ぎまでイーストビル8階の「銀座アスターベルシーヌ新宿」で@1,500の酢豚ランチ定食+焼売とビール他で映画の感想等話をしながらの懇親会を催しました。(文と写真:鈴木)